

イノベーションの更なる進化

執行役専務

須藤 亮



東芝グループは、“グローバルトップへの挑戦”を経営方針に掲げ、イマジネーションを深めてイノベーションの更なる進化を推進しながら、グローバルに競争力を持ったトップレベルの複合電機プロバイダーを目指しています。東芝グループが強みとする個々の技術をイノベティブソリューションとして提案するため、“トータル ストレージ イノベーション”と“トータル エネルギー イノベーション”というコンセプトを作り上げ、市場ニーズに沿ったグローバル展開を加速しています。

また、今後も東日本大震災からの復興や電力供給不足への対応が必要であり、広範な技術資産を生かし、被災地への支援とともに、省電力対応商品の開発などに引き続き注力していきます。

2012年の主な技術成果は、以下のとおりです。

<トータル ストレージ イノベーション>

統合ストレージに向けた取組みの一つとして、NAND型フラッシュメモリを核に、HDD（ハードディスクドライブ）と組み合わせることで大容量化と高速アクセス性を両立させたハイブリッドドライブをPC（パソコン）向けに製品化しました。今後、サーバや産業用ストレージ製品にも展開していきます。

デジタルプロダクツでは、液晶テレビ〈レグザ〉で新たなテレビの使い方を提供するクラウドサービスを業界に先駆けて開始するとともに、4K（3,840×2,160画素）テレビ向け高質感映像処理技術を開発しました。

ヘルスケアでは、低被ばくで操作性に優れた全身用X線CT（コンピュータ断層撮影）診断装置や簡単に確実な検査と省エネを両立させたMRI（磁気共鳴イメージング）装置を開発しました。

<トータル エネルギー イノベーション>

震災復旧では被災した火力発電所や社会インフラの復旧作業を完了し、電力供給不足への対応では火力発電所の新設や旧発電設備の早期運転再開を支援しました。太陽光発電や、水力・風力発電に関わる新規設備の納入や営業運転により、再生可能エネルギーの利用拡大にも貢献しています。

スマートコミュニティ事業では、国内外の実証プロジェクトに参画し早期運用に貢献するとともに、東芝グループのランディス・ギア社のスマートメータ技術を組み合わせた新製品を投入しました。また基幹電源では、東芝グループのウェスティングハウス社がPWR（加圧水型原子炉）の建設工事を中国と米国で進めています。

パワーエレクトロニクスでは、高効率の鉄道車両向け永久磁石同期電動機（PMSM）や、希少金属を使用しないモータ用耐熱型磁石を開発しました。また、二次電池SCiBTMがアイドリングストップシステム搭載車へ採用されたほか、蓄電池システムに適用されています。

以上、未来を見据えた東芝グループの技術開発の状況と成果の一端を紹介いたしましたが、ぜひ本文をご一読いただき、皆さまのご助言、ご指導をいただければ幸甚です。